

## 第 29 回建設業経理士検定試験 2 級試験問題

### < 第 4 問 >

P 建設株式会社は、各工事現場の管理のために、3 台の車両（1 号車、2 号車、3 号車）を使用している。これら車両に係る費用を各工事に配賦するために、車両走行距離を基準とした予定配賦法を採用している。次の<資料>に基づき、下記の問に解答しなさい。

#### <資料>

##### (1) 当会計期間の車両関係費予算

1 号車	減価償却費	¥ 860,000
2 号車	減価償却費	¥ 540,000
3 号車	減価償却費	¥ 1,085,000
	車両修繕管理費	¥ 642,000
	車両保険料その他	¥ 137,000

##### (2) 当会計期間の車両走行距離（予定）      25,000km

(3) 当月の工事現場別車両利用実績	甲工事	630km
	乙工事	420km
	丙工事	150 km
	その他の工事	180km

##### (4) 当月の車両関係費実際発生額      ¥ 198,000

問 1 当会計期間の車両関係費予定配賦率を計算しなさい。なお、計算過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。

問 2 当月の丙工事への予定配賦額を計算しなさい。

問 3 当月の車両関係費に関する配賦差異を計算しなさい。なお、配賦差異については、有利差異の場合は「A」、不利差異の場合は「B」を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

※ 次ページより解説があります。

#### < 第4問の解説 >

問1 当会計期間の車両関係費予定配賦率を計算しなさい。なお、計算過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。

問題文より、「車両走行距離を基準とした予定配賦法を採用している」とあるので、関係費予算の合計を予定走行距離で割って、予定配賦率を求めます。

$$(860,000 + 540,000 + 1,085,000 + 642,000 + 137,000) \div 25,000 = @ ¥ 131$$

問2 当月の丙工事への予定配賦額を計算しなさい。

丙工事の車両利用実績は 150 km なので、

$$@ ¥ 131 \times 150 \text{ km} = ¥ 19,650$$

問3 当月の車両関係費に関する配賦差異を計算しなさい。なお、配賦差異については、有利差異の場合は「A」、不利差異の場合は「B」を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

$$\text{予定配賦額の合計} = (630 \text{ km} + 420 \text{ km} + 150 \text{ km} + 180 \text{ km}) \times @ ¥ 131 = ¥ 180,780$$

資料(4)より、実際発生額は ¥ 198,000。

¥ 180,780 で足りると予定していたら、実際には¥ 198,000 も必要だったということです。ですから、 $¥ 198,000 - ¥ 180,780 = ¥ 17,220$  の不利差異となります。不利差異は貸方差異です。

不利差異は費用 → 費用のホームポジションは借方 → 不利差異は借方差異。

有利差異は収益 → 収益のホームポジションは貸方 → 有利差異は貸方差異。

と覚えましょう。